



我孫子市

Abiko city

令和4年3月29日
定例記者会見資料

東京 2020 オリンピック聖火リレートーチ 常設展示

1年の延期を経て令和3年7月3日（土）に市内を走る予定だった東京 2020 オリンピック聖火リレーのトーチを、我孫子市生涯学習センター「アビスタ」1階に常設展示します。なお、市ではさらに2本購入し、市民の皆さんに貸し出しできるよう準備を進めています。

【常設展示】令和4年3月31日（木）～

【場 所】我孫子市生涯学習センター「アビスタ」1階 手賀沼公園側入口付近
※「禎子鶴」の隣に展示

○トーチ常設展示説明文（別紙参照）

【問い合わせ】

我孫子市総務部秘書広報課

担当 安武・川島

☎04-7185-1111（内線272・276）

《トーチ常設展示説明文》

「史上最もイノベティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会」を大会ビジョンに掲げた東京2020大会は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による1年の延期後、2021年夏に無観客で開催されました。

この大会は、東日本大震災が起きた2011年から、スポーツの力が被災地に夢と希望をもたらすことを訴えながら招致活動が行われ、2013年9月に東京開催が決定しました。

震災では、我孫子市でも特に布佐東部地区が液状化による大きな被害を受け、市では速やかに専門部署を設置して、復旧・復興にあたりました。そのような中、我孫子東高校の生徒が被災家屋の片づけを手伝ったり、布佐中学校吹奏楽部が地元を元気づけるために春のコンサートを開催したりするなど、若者が復興の大きな力になりました。

復興五輪に位置づけられた東京2020大会のオリンピック聖火リレーで、この復興を世界にアピールするとともに、将来を担う我孫子の子どもたちをはじめ多くの市民の皆さんの心に刻まれる瞬間にしたいという思いで、東京開催決定の翌年、2014年から市長自ら先頭に立って、聖火リレーの誘致に取り組みました。その活動が実り、2019年にオリンピック聖火リレーが我孫子市を走ることが決定し、さらに、聖火ランナーとして、市立中学校の生徒2名が選ばれました。

市では、1年の延期を経て2021年7月3日（土）に市内を走る聖火リレーに向けて、中学生や高校生による吹奏楽や工夫を凝らした応援、市民団体による演奏や演技のほか、小中学校19校から選ばれた子どもたちがサポートランナーとして最終区間の聖火ランナーと一緒に走るなど、沿道や到着地点を盛り上げる準備を進めていました。また、NPO 法人我孫子市スポーツ協会や消防団などの皆さんがボランティアとして沿道整理等にご協力くださる予定でした。

最終的には、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて、千葉県では無観客の点火セレモニー開催に変更となり、聖火リレーの市内走行は実現に至りませんでした。しかし、コロナ禍という異例の状況下で開催される聖火リレーに向けて、地域が一体となり、力を合わせてくださったことは、大変有難く、感謝の念に堪えません。

また、高校生となりセレモニーに参加した生徒からは、「いろいろな人のおかげでこのセレモニーが開催できたので、たくさんの人に感謝しています。」「トーチを手にして緊張しましたが、このご時世に生きるための勇気や元気を与えたい！と思いました。今は行動が制限されていますが、そんな中でこそ、人と協力して出来ることを楽しみたい。」と感想が寄せられました。

こうした取り組みをレガシーとして伝えていくとともに、オリンピックの理念のひとつである平和な社会の実現を願い、ここに東京2020オリンピック聖火リレーのトーチを展示します。

なお、パラリンピック聖火リレーに向けては、手賀沼公園の「平和の灯」から採火した「我孫子市 平和の火」を、市民の皆さんの平和への願いとともに送り出しました。